



発行者 等々力地区身近なまちづくり推進協議会 広報部会
事務局 等々力まちづくりセンター TEL. 03-3702-2143 FAX. 03-3702-1165

2023 元旦
あけましておめでとうございます
「玉の清流」編集委員一同

令和五年

癸卯の年



明けましておめでとうございます。前年（60年前）の癸卯は、1963年（昭和38）でしたが、この年の最大のニュースは、ジョン・F・ケネディの暗殺事件が起こったことでした。

国内においては、吉展ちゃん誘拐事件が大きなニュースとなりました。一方、黒4ダムの完成、名神高速道路の開通などの社会インフラが次々と整備され、都内でも、翌年の東京オリンピックに向けて首都高や環七の工事が急ピッチで進んでいる年でした。テレビからは、「東京五輪音頭」や、「見上げてごらん夜の星を」、「こんにちは赤ちゃん」などの明るい曲が毎日のように流れていて、高度成長の真っ只中で、翌年のオリンピックへの開催熱が高まってきました。

さて、100年前の1923年は関東大震災が起こった年です。第一次世界大戦後、スペイン風邪が世界中で猛威をふるい、日本でも延べ200万人を超える感染者が出て、やっと終息に向かった頃に起こった大災害でした。

その時から100年、東京でも直下型地震はいつ起きても不思議ではない

世界一大きな絵プロジェクトin世田谷区

世界中の子ども達が描いた絵を繋ぎ合わせ、一枚の「世界一大きな絵」を作ることを目的としたプロジェクトが、昨年6月に満願寺で開催されました。参加した子ども達の手によって大きくて鮮やかな絵が完成しました。

このプロジェクトは、子ども達が国や宗教・人種を越えて真の平和を愛する気持ちを育むことを目的としています。今後も、日本や世界中の各地で子どもたちが描いた絵を繋ぎ合わせ、2024年夏にパリオリンピックが開催されるフランスで披露する予定です。



せたがや iMap の表示画面

「震災時井戸水提供の家」という看板を住宅街の中で見かけました。文字通り、震災が起こった時に、その家の井戸水を近隣の人に提供するというもので、調べてみると全国的にこの制度があることがわかりました。世田谷区内でも、提供してくれる家の住所が公開されていて、等々力地域に限定しても、等々力・尾山台・玉堤町内合わせて55箇所もあります。この制度は、昭和50年頃から始まったようです。最近、ハザードマップに対して意識が高まり、それを利用して、事前に対策を取ることができるようになりました。



せたがや iMap

なってきました。一方で、井戸水についても、世田谷区では「せたがや iMap」というマップに防災関連の情報と位置が明示されています。これを見れば自宅の位置からどこに行けば井戸水を利用できるかわかります。さらにこのマップ上では、避難場所、広域防災倉庫、給水拠点、AED設置場所なども明示されています。今後も様々な情報が表示されることで、より利用しやすくなると思います。

また、地震後の停電時に、太陽光電力を供給する「震災時給電の家」ができれば、近隣の方にもスマホなどを安心して使うことができるはず。個人の家のインフラの井戸や太陽光発電設備であっても非常時に地域で共有活用する仕組みができれば、おのずから近所のつながりが増え、共助の精神を高めることに繋がります。それらのインフラをきちんと維持するために、公からの支援により、自助、共助、公助という仕組みを活かすことにつながると信じます。

3年ぶりに地域のイベントが復活！

新型コロナウイルスの影響で、ここ数年、等々力地区の数々のイベントが中止や自粛を余儀なくされてきましたが、昨年は活気溢れるイベントが復活を始め、地域の賑わいが戻ってきました。

●親と子の映画会(8月26日)

青少年地区委員会主催の小学生を対象とした映画会が玉川せせらぎホールで開催され、「ボス・ベイビー ファミリー・ミッション」が上映されました。上映中は大きな笑い声がおこり、子ども達の「面白かった！」と喜んでいる姿が印象的でした。



●尾山台地域体育館まつり(10月2日)

大人も子どもも夢中になって、ポッチャヤダンス、エアロビクスなどのスポーツを楽しんでいました。尾山台中学校吹奏楽部などの様々なパフォーマンスもあり、大いに盛り上がりつつありました。

●尾山台の商店街のお祭り

尾山台サマーナイトフェスティバル(8月28日)、裏通りフェスティバル(9月4日)、尾山台エスティバル(10月15日)などが開催され、それぞれの商店街を埋め尽くすほどの人が訪れ、とても賑わっていました。



●ごみ分別クイズ(10月15日)

ごみ減量・リサイクル推進委員会主催のごみ分別クイズが尾山台フェスティバルに出店しました。ブースの前には行列ができ、親子での参加も多く、難しい問題に頭を悩ませていました。



宮中新嘗祭にて等々力の農家の粟が献納されました

新嘗祭は、五穀豊穡を神々に感謝する宮中行事です。毎年、各都道府県から選ばれた農家の穀物等が天皇陛下に献納されますが、今回、本紙157号で「等々力農振会の歩み」を寄稿していただいた大平守行さんがその大役に選ばれ、愛情を込めて育てた粟が、無事に天皇陛下に献納されました。



昨年6月10日に種を撒く儀式「献穀粟御播種祭」、9月8日に粟の穂を刈り取る儀式「抜穂祭」が関係者立ち合いのもと、厳かに執り行われました。

等々力の歴史を語り継ぐ会の写真紹介

今と昔シリーズ 等々力陸橋 今と昔シリーズ 等々力陸橋



これからの行事

- ◆さざ草栽培講習会 身近まち緑化部会 2月17日(金) 尾山台地区会館
- ◆古着・古布の回収 等々力地区町会連合会 2月26日(日) 尾山台中学校 等々力小学校
- ◆普通救命講習会 身近まち生活環境部会 3月4日(土) 玉川せせらぎホール集会室
- ◆歩こう会 身近まち健康づくり部会 4月1日(日) コース未定

編集後記

気がつけば3年近く、新型コロナウイルス感染症に振り回される日々が続いています。昨年の「玉の清流」の編集活動も、少なからず影響を受けました。年明けからの第6波、続いて7月からの第7波の度重なる感染状況の悪化により、対面での編集会議は中断、中止を余儀なくされました。そのため、LINE等の活用によりスマートフォンでの意見交換を初めて行うなど、新しい試みにも挑戦しました。

その甲斐もあって、昨年は、3年ぶりに年4回の通常の発刊にこぎつけることができました。コロナ禍において試行錯誤の末の通常の発刊は、将来の編集作業のあり方を考えるうえでも、意義のあるものになったと思います。

さて、「玉の清流」も今号で160号の節目を迎えます。本年こそは、コロナが終息し、平穏な日常が戻ることを願うと共に、これからも読者の皆様に様々な話題を提供できますよう、努力してまいります。本年もなにとぞよろしくお願いたします。 大平 敏介